

# 第3回 アドバイザー意見聴取

日時：2021年11月24日（水）

場所：松本市役所3F大会議室

出席アドバイザー：倉田 直道先生、矢野和之先生、久保田 尚先生、山下 裕子先生

## アドバイザーの意見要旨

### 1 エリア全体

- ・暮らしがどのように変わっていくかを示す必要がある。「これからの暮らし」を描き、松本でその暮らしを実感できるということが重要である。
- ・「将来」は“今の延長”であるため、「未来」と言い切ってしまうてもよいかもしれない。
- ・松本は冬が厳しい。そのため、屋内でも交流できる場を一つの特徴として整備することが考えられる。
- ・クラフト文化を拡張していくことは重要なことである。
- ・インディー文化を、文化であると名言すべきである。尖っていて良い状態をいかに作るかが重要である。
- ・松本では旧市街／近代／現代が重層しており、近代をしっかりと落とし込んでいく必要がある。近代化は都市の骨格となっている。
- ・オーバーツーリズムにより市民の暮らしに入れなくなり、楽しむべきものが見えなくなるような暮らしに入り込むことと、見える生活の中身が重要となる。

### 2 交通

- ・主要な歩行者ネットワークの強化は、南西外堀復元とセットで考えるとよい。
- ・「自動車依存」という言葉は、自動車はどうでもよい、というようにも聞こえる。車を使わないと移動できない方などもあるため、車についてはしっかりと書いた方がよい。
- ・通過交通の流入抑制は行うが、人に来てもらいたいということはしっかりとアピールすべき。

### 3 地蔵清水・柳町界隈

- ・本来の登城ルートが一番お城がよく見えるルートである。本来のルートが一番ドラマティックで感動あるルートになるようにできるとそこを通る人は増えるのではないか。
- ・回遊ルートが整備されてきたら、土橋を撤去するということも考えられるのではないか。

### 4 松本城二の丸界隈

- ・文化庁も活用を望んでいるのではないか。復元と活用をセットで考える積極案を検討できるとよい。本来歴史的に祭事も行われる場所であり、活用することは歴史的観点からも重要。